５．タイワンリス

（１）タイワンリスの生物学

【学名・分類】

学名：*Callosciurus erythraeus*

和名：クリハラリス

※　本マニュアルでは通称であるタイワンリスを使用する

分類：齧歯目リス科

【原産地】

インド東部から中国南東部、および台湾

【導入の経緯】

日本では昭和５年以降にペットや動物園等での飼育個体が逸出したり、放たれたりした事が原因で野生化した。台湾産だけでなく、中国産のものも導入されている。

タイワンリスの分布域

（阿部ら,2005 より）

【国内の分布】

現在は、東京都（伊豆大島）、神

奈川県、静岡県、岐阜県、大阪府、兵庫県、和歌山県、長崎県（壱岐、福江島）、熊本県、大分県に定着している。

【形態】

頭胴長 20～22㎝、尾長 17～20㎝、体重 150～500ｇ。体の背面が黒と黄土色の霜降り、腹面は淡い灰褐色あるいは赤褐色（クリ色）をしている。

【繁殖】

昼行性で、樹上で生活する。枝の間に球形の巣を作るほか、樹洞、人家の屋根裏等にも巣を作る。巣材として樹皮を利用する。生後約１年で繁殖を開始し、通常年に１回、主に秋季に１～２頭を産む。ただし、餌条件が良い場合には年に３回繁殖し、最大４頭を出産する可能性がある。

【食性】

植物の花、種子、果実、新芽などが主な餌だが、昆虫も食べ、餌の少ない時期は樹皮を剥いで樹液を採食する。このように、在来種のニホンリスと比べ幅広い餌を利用する。こうしたことからニホンリスとの餌をめぐる競合や、植生への影響が危惧される。

【行動域】

メスの行動圏は 0.5～1.0ha で、メスどうしの行動圏の重複は少ない。オスの行動圏は 2.7～5.5ha で、オスどうしで重複する。オスとメスの行動圏は互いに重複する。行動圏が狭く重複するために、生息密度は高い。

（２）識別のポイント

【似ている動物】

ニホンリス

- 全体的に茶色っぽい
- 腹部は白い
- 冬毛になると耳先に毛が生え、先端が尖って見える

タイワンリス

- **全体的に黒っぽい**
- **腹部は灰色か、赤褐色**
- **耳は短く丸い**
- **独特の声でよく鳴く**
- **樹液の採食のため、樹木を環状に剥皮する**

（3）被害の実態

【農作物被害・林業被害】

ミカンなどの果樹では果実の採食や樹皮剥ぎの被害が生じている。ダイコンなどの野菜類の被害も多い。長崎県壱岐市や五島市ではスギやヒノキの苗木に対する食害が甚大である。東京都伊豆大島では、観光資源でもあるツバキの樹皮が齧られ、大きな被害を受けている。

樹皮への食害
樹幹のところどころが剥皮されている

ミカンへの食害

ダイコンへの食害

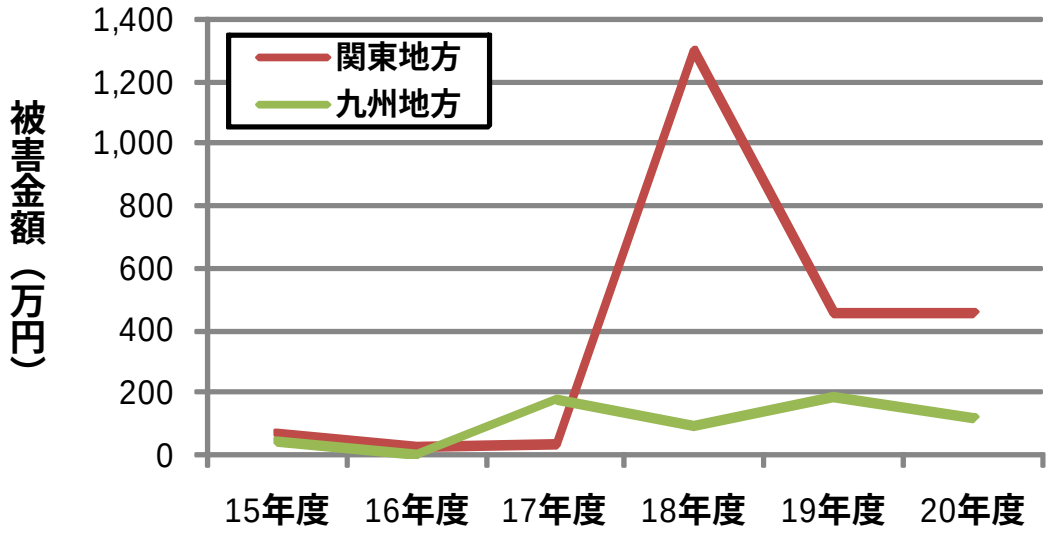


図 4-4　タイワンリスによる農作物被害金額の推移

（農林水産省生産局農業生産支援課資料より）

【生活環境等被害】

家屋の天井裏や戸袋に営巣し、木材を齧るなどの被害が生じているほか、電線、電話線を齧る被害が生じている。

【生態系被害】

タイワンリスは特定の樹木に集中して採食する傾向がある。集中的な種子や果実の採食や樹皮の剥皮によって、更新が阻害されたり、ひどい場合には枯死などの被害が生じている。また、メジロの卵を食べたり、スズメバチの巣を襲うといった事例も見られる。

（４）被害を防ぐ環境管理

タイワンリスは樹上を主な移動経路としているため、家屋や農地周辺の侵入経路となり得る樹木の伐採や、枝の剪定等によって侵入を防止する効果が得られる。また、管理の行き届かない造林地はタイワンリスの格好の営巣、採食場所となるので、下刈りや間伐を行う必要がある。

（5）侵入防止対策

タイワンリスは樹上で活動し、体のサイズが小さいため、有効な侵入防止技術は今のところない。上部にかえしの付いた柵は一時的には有効であるが、倒木や落枝が柵にかかるなどの予期せぬ事から侵入を許す事があるため、長期にわたって完全に侵入を防ぐ事は困難である。

タイワンリスは通常樹上に巣を作るが、民家の戸袋に侵入して巣を作ることもある。その対策として、戸袋の隙間をふさいで入られないように工夫している。

（6）捕獲の方法

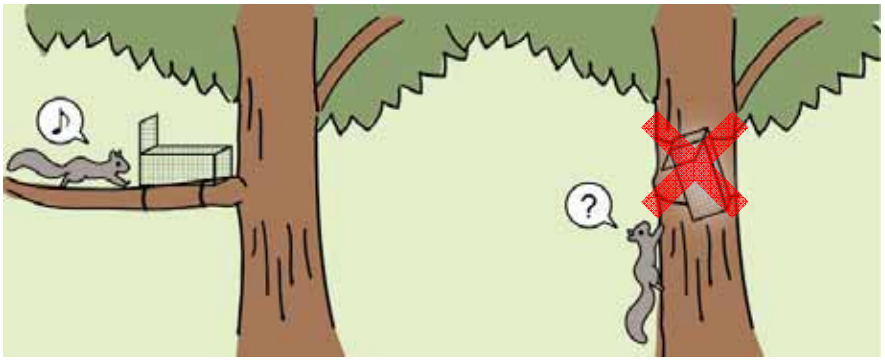
【銃器による捕獲】

東京都大島においては銃器による捕獲を実施している。伊豆大島の平成 20 年度の捕獲実績 9,677 頭のうち、約３割の 2,714 頭が銃器によって捕獲されている。

タイワンリスを銃器で捕獲するには、空気銃を使用して、流し猟、忍び猟のいずれかで行う。

【わなによる捕獲】

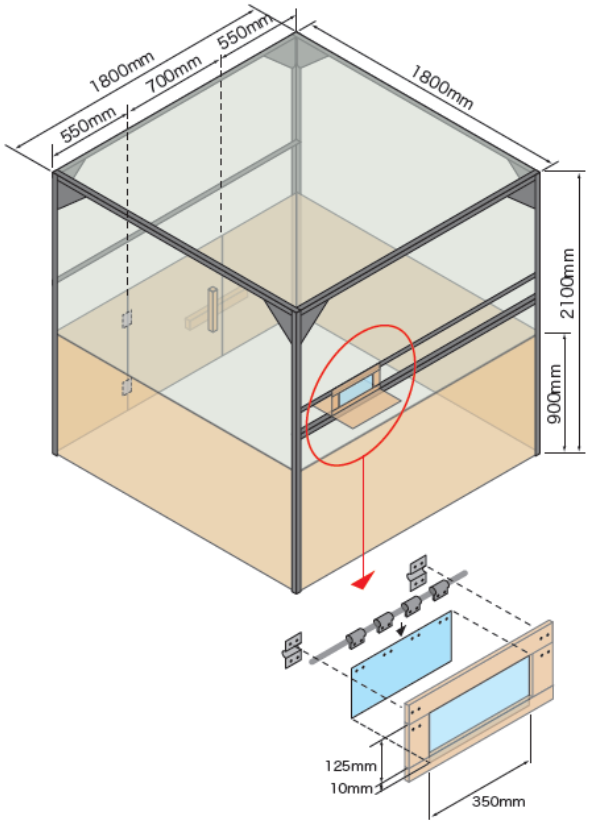
通常は、ネズミの捕獲などに使用する市販のはこわなを使用する。餌にはミカンやリンゴ、サツマイモ、油揚げ、ピーナツバター等を使用する。わなの設置場所は樹上の水平な枝などが良い。タイワンリスは秋季に巣立ちする個体が多いことから、その時期に集中的な捕獲作業を行うことで個体数抑制の効果を高めることができる。また、複数個体の生息域が重複していることから、一箇所で複数が捕獲できる。しかし、長期間同じ場所で捕獲を継続すると捕獲効率が低下するので、ある程度の期間毎にわなを移動することが望ましい。



効果的に捕獲できるよう、わなは移動経路となる横枝などに設置する

はこわなの設置状況

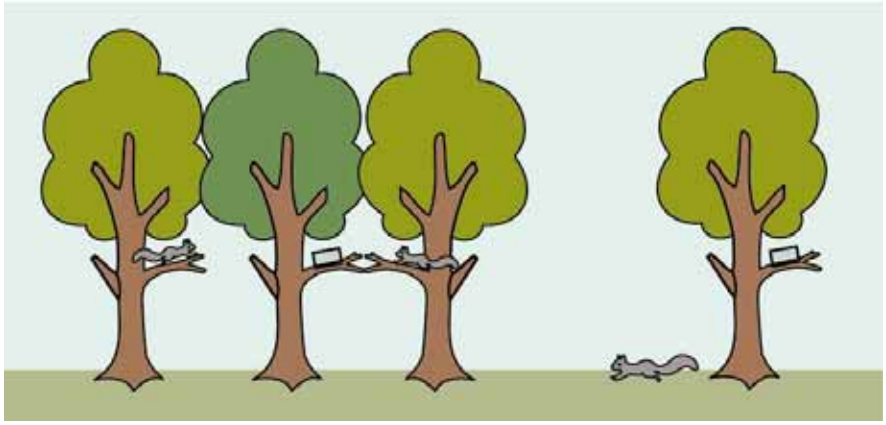
多頭捕りわな
GIGANT（ギガント）は、タイワンリスの群れやすい習性を利用して開発された生け捕り用の大型はこわなである。入口を通過すると外に出られない構造となっており、捕獲個体がわな内で生存していると、周辺の個体が次々と捕獲され、一度に多くの個体が捕獲できる。



多頭捕りわなギガントの構造図
金田正人提供

【初期対応の重要性】

タイワンリスは昼間活動し、独特の大きな鳴き声を発するため、比較的その存在を確認しやすい。タイワンリス対策では初期初動の迅速性が重要であり、生息や被害が確認された段階で、すぐに捕獲作業を開始することが重要である。これまでの事例では、被害が出始める頃には、すでに生息密度は高くなっており、分布域も拡大し始めていることが多い。地域住民に対してタイワンリスへの理解を深めるための普及啓発を常に実施し、地域ぐるみで対策を実施するよう、意識を高めていく事が重要である。



タイワンリスは木の横枝を伝って移動していく。わなは移動経路となっている枝同士が接している場所を重点的に設置すると良い。